

# 第4次福祉保健総合計画

## 地域づくり(基本施策1)の 個別計画をつなぐ手法の提案

坂井市 健康福祉部



### 課題

- 人のつながりの希薄化・孤立
- 地域活動への参加低下
- 担い手の不足
- 高齢化に伴う生活リスク

### 理想

- つながりがある
- 相談しやすい
- 居場所がある
- 役割がある

# 最終アウトカム

坂井市における課題解決に向けた  
地域づくりが進む

坂井市において地域住民が  
生きがいや地域の魅力を感じれる

## 中間アウトカム

ひとりひとりが地域において自分の強みを活かせる居場所を見出し、  
困り事などを気軽に相談できるつながりを持っている

## 直接アウトカム

01

地域住民の課題や必要とされている居場所に関するニーズが明らかとなり、地域住民や行政等がそれを認識し、理解が深まる

相互理解

02

地域活動や機会と地域住民のニーズや課題のマッチングやコーディネートを支える体制が組織や部署を超えて整備される

しくみづくり

03

地域活動や課題解決に新たに挑む人たちの支援や組織化が進む

チャレンジャー  
応援

04

地域住民が地域における困り事解決の仕組みを理解し、地域づくりの行動指針に沿って活動できている

自ら行動

## なぜ状態像が必要なのか？

- 分野ごとの課題を並べても、全体の方向が見えにくい
- 共通課題を“ひとつの方向”にそろえる軸が必要
- 状態像を置くことで、個別計画を重ねても迷わない
- 「坂井市としてどんな地域を目指すのか」が明確になる



## 状態を目指す総合計画の概念整理

構成要素	内容	人口減少社会における意味
前提条件	担い手の減少、課題の複雑化、分野別対応の限界	単独施策では持続しない状況を共有する
共通の目標	4つの状態像(相互理解・しくみづくり・チャレンジャー応援・自ら行動)	分野を超えた共通のビジョンを持つ
各個別計画	地域福祉、高齢者、障がい者、健康増進、こども計画	状態像への貢献を自ら考える
横断的取組	計画間の重なりや補完として結果的に形成	限られた資源を効果的に活用
基本原則	状態を目指すことが目的、事業は手段	総合計画である意味を明確化

状態像	取り組み	主管課
相互理解		
しくみづくり		
チャレンジャー 応援		
自ら行動		

10月末までに個別計画における、現在の取り組みを整理し、作表をお願いします。

# 地域福祉計画の使用例

状態像	取り組み	主管課
相互理解	自治会研修ワークショップ	市民協働課
	支部社会福祉協議会委員会での会議	社会福祉協議会
しくみづくり	まちづくり協議会	市民協働課
	ふくしの会	社会福祉協議会
チャレンジャー 応援	まちづくりカレッジ	市民協働課
	市民活動応援助成事業費補助金	市民協働課
	共同募金を通じた地域たすけあい運動	社会福祉協議会
自ら行動	見守りマップの作成	社会福祉協議会
	民生委員による見守り	社会福祉課

# 完成イメージ

状態像	地域課題	取り組み	主管課	地域	高齢	障がい	健康	子ども
相互理解	担い手の不足	自治会研修ワークショップ	市民協働課	○	○	○	○	○
	地域活動への参加低下	支部社会福祉協議会 委員会での会議	社会福祉協議会	○	○	○		○
しくみづくり	つながりの希薄化	まちづくり協議会	市民協働課	○	○	○	○	○
	高齢化に伴う 生活リスク	ふくしの会	社会福祉協議会	○	○	○		
チャレンジャー 応援	担い手の不足	まちづくりカレッジ	市民協働課	○	○	○	○	○
	地域活動への参加低下	市民活動応援助成事業費 補助金	市民協働課	○	○	○	○	○
	地域活動への参加低下	共同募金を通じた地域た すけあい運動	社会福祉協議会	○	○	○	○	
自ら行動	高齢化に伴う 生活リスク	見守りマップの作成	社会福祉協議会	○	○	○		
	高齢化に伴う 生活リスク	民生委員による見守り	社会福祉課	○	○	○		8

## 地域課題と取り組み整理の進め方

本整理は、地域課題と各取り組みの関係を明らかにするため段階的に進めます。10月までに各分野で取り組みを「状態像」との関係で整理し、11月に事務局で集約・横断的に整理します。12月の策定委員会で中間報告を行い、ご意見を踏まえ方向性を確認します。翌年1月には指標案を検討し、その後は本整理を活用し、毎年度、進捗と地域課題への対応状況を検証していきます。最終的には、分野横断で課題と取り組みの関係性を可視化した資料として整理します。

年月	内容
2026年10月	個別計画担当が「状態像 × 取り組み」の表を完成
2026年11月	事務局で全分野を集約 <b>地域課題と紐づけ</b>
2026年12月	第2回策定委員会で中間報告
2027年1月	<b>具体的な取り組みや指標案</b> の検討
2027年3月	第3回策定委員会で指標案
次年度以降	共生社会推進会議での検証

Q1. これは計画本文に書くのですか？

A1. 計画本文の総論では、地域づくりについて、市民・行政・関係機関が共有する“共通の目指す方向”として位置づけるという考え方を示します。また今回の表は、毎年の進捗を確認するための具体的な検証手法であり、検証ツールとして扱います。

Q2. 個別計画の委員会は何をすればいいのですか？

A2. 10月末までに、「状態像 × 取り組み × 主管課」の表を埋めてもらうだけです。

Q3. 施策の方向性(14項目)との関係は？

A3. 4つの状態像は、主に基本施策1を分野横断で使えるように抽象化したものです。

Q4.なぜ状態像で整理する必要があるのですか？

A4.状態像は、分野ごとの取り組みを同じ“方向”にそろえるための軸です。計画全体としてどこに向かうのかを共有するための“共通の方向性”として使います。

Q5.進捗確認は？

A5.どれだけ取り組みが増えたか、どの状態像に寄与したか、分野横断の重なりが広がったかを表を用いて毎年度確認します。

また、計画最終年度に市民アンケートで、相談しやすさ・つながり・居場所・役割など、状態像に対応する指標がどう変化したかを確認します。